

# 赤い羽根共同募金運動の成果

## 地域課題の解決に向けて

### 助成の事例

### 地域のさまざまな課題を解決するために

赤い羽根共同募金に寄せられた募金の約7割は、募金をいただいた市区町村で使われます。残りの約3割は、皆さまの住んでいる市区町村を越えた、広域的な課題を解決するための活動に、都道府県の範囲で使われています。

令和4（2022）年度にお寄せいただいた募金により、全国46,175件の地域福祉活動を応援しました。ここでは、共同募金により応援した活動の一部を紹介します。



### リハビリ器具の購入事業

沖縄県 特定非営利活動法人 ToiToi

医療的ケアが必要な児童に対して、専門の椅子や器具を使うことにより、専門職（理学療法士）の指導のもと、多くのスタッフが良肢位保持（ポジショニング）・立位・歩行援助が安全に行えるようになります。それにより重度心身障害児の問題点である関節の変形・拘縮や呼吸の機能の低下の予防につながります。

そしてなにより、リハビリ器具が増えたことでToiToiにたくさんの笑顔が増えました。本当にありがとうございます。これからも大切にに使わせていただきます。



### 子ども食堂

山梨県 甲斐市社会福祉協議会

学校や家庭以外の「子どもの居場所や孤食の解消」を目的として、生活に困窮している世帯の小中学校の児童と生徒を対象に子ども食堂を年5回、大学生ボランティアによる学習支援をかねた子ども食堂を年3回実施しました。また、甲斐市南部エリアの参加者が参加しやすいよう昭和町社協との共催で子ども食堂を年1回実施しました。コロナ禍で人とのつながりが希薄化するなか、参加した児童生徒からは「楽しかった。また参加したい。」、保護者からは「保護者同士の交流も図れた。」など嬉しい声も届きました。



### 「CCAP版 親と子の関係を育てるペアレンティングプログラム®」 ファシリテーター養成講座

東京都 社会福祉法人子どもの虐待防止センター

CCAPオリジナルのプログラム「CCAP版 親と子の関係を育てるペアレンティングプログラム®」を行うファシリテーター養成講座を実施しました。

事前に申し込みを受けた、子どもと家族の支援にかかわる専門職12名を対象に、2日間にわたってプログラムを身につけるための講義やロールプレイングを含めた研修を会場で対面実施できました。



### 送迎用車両整備事業

静岡県 生活介護そら

毎日送迎するための車が足りず、非常に不便でしたが、今回新たに車椅子4台が1度に乗車できる装備が整った送迎用車両を購入でき、安心して送迎ができるようになりました。

待ちに待った送迎車を買うことができとても嬉しいです。移動距離が少し長くても快適で、車内も静かなので大声を出さなくてもお話しができるようになりました。

安全装備も充実しているので運転しやすく、何より安心です。

皆さまの温かい心のこもった募金に感謝しています。ありがとうございました。



## ネット募金

赤い羽根共同募金にインターネット上でご寄付いただけます。



## はねっと

赤い羽根共同募金の使いみちはこちらからご覧いただけます。



## 共同募金

令和4(2022)年度

## 共同募金運動の概要

### 募金総額

共同募金総額	16,802,759,711円
赤い羽根共同募金	12,641,873,059円
地域歳末たすけあい募金	3,631,142,603円
NHK歳末たすけあい募金	529,744,049円

### 助成総額

共同募金助成総額	14,297,816,677円
赤い羽根共同募金による助成	10,471,432,785円
地域歳末たすけあい募金による助成	3,332,683,610円
NHK歳末たすけあい募金による助成	493,700,282円



## 災害ボランティアセンター配分

福島県 新地町社会福祉協議会



令和3年2月13日に発生した福島県沖地震を受けて、新地町社会福祉協議会では災害ボランティアセンターを設置しました。延べ403名のボランティアの皆さまに活動していただき、高齢者世帯や障がい者世帯等の家屋内の片付けや落ちた瓦の撤去作業のほか、専門的な技術ボランティアによる屋根の応急処置等の作業を行いました。資金面では赤い羽根共同募金の「災害等準備金」を受け、ボランティア活動に必要な備品・消耗品(土のう袋、安全靴、手袋等)の購入や車両の借上げを行い生活再建に向けた災害支援活動ができました。



## 湖東地区まごころ配食弁当

長野県 茅野市湖東地区社会福祉協議会



75歳以上のひとり暮らしの方、85歳以上の方などを対象に、自治会にご協力いただき配食及び見守り支援を行うことができました。

この支援のなかで、地区内の福祉関係者で見守りが必要となる可能性が高い対象者の情報を交換することで、見守りネットワークができました。また配達時に「最近元気？」などの声かけを行うことにより、コロナ禍でも地域住民同士の「つながり」と顔と顔の見える関係ができました。



## 新型コロナウイルスの影響等による生活困窮世帯への支援

新潟県 フードバンクながおか



食料品等を受け取る世帯の方から「食事に有用な調理品や簡単調理品を支援してもらい感謝しています。子どもの好きなお菓子も入っており、子どもも喜んでいました。」という声をいただきました。

コロナ禍で配付するための食料品等の寄付が減少するなか、助成金により食料品等を購入し、各該当世帯へ支援することができました。

食料品等を受け取る世帯の方々の笑顔がとても印象に残りました。助成金に感謝します。



## 支え合いマップ作成事業

富山県 立山町社会福祉協議会



助成金を活用して、町内の複数地区で拡大地図を用い、支え合いや防災情報の共有を図る研修会を行いました。何気ない見守りや日頃の備えを「見える化」することで、地域の強みや課題を共有することができ、災害時や福祉活動に役立てる事が可能となります。取り組む集落の輪が少しずつ広がっており、継続的な実施をしていきたいと考えています。今後も、取り組みを継続して地域のつながりづくりを進めていけたらと思っています。